

2004/2005

>>> 熱き魂の軌跡

16歳の勢い

まだ少年の面影が色濃く残る藤立ち。それもそのはず、昨年高校生になったばかりの弱冠16歳だ。5月にアメリカ・マンモスマウンテンで行われた全日本チームの強化合宿にも、ただひとりの高校生として参加。そこでもあどけない笑顔を見せていた。

だが、雪上に立てばトップレーサーとしての風格もすでに漂わせる。まだ、身体の線も細く、身体能力ではシニアチームの面々には、はるかにおよびない。とくに体幹部の筋力が不足しているために、どうしても上体がつぶれぎみになってしまう。それでも、そのスキ―さばきは誰もが「天性のもの」と認める。
〔佐々木明さんや(菅川)賢太郎さんと、同じ環境でトレーニングすることができるのが

うれしい。自分に足りないものはまだまだあるけれど、どんどん吸収してうまくなっていきたい。〕

今季はケガの影響があり、満足にトレーニングも行えない苦しいシーズンだったという。しかし、シーズン最後のFIS野沢スプリングカップのGSで、並みいる国内の強豪、そしてワールドカップ選手を向こうに「自分でもびっくりした」と言う、みごとな優勝を遂げる。16・57という高ポイントを獲得して、一躍同世代の世界ランキングの上位に躍り出た。さらに、シニアチームとの合同の合宿への抜擢。あり余るほどのスキ―センスを発散しながら滑るその姿に、早くも活躍の期待を抱いてしまうのは、尚早なのだろうか。



1988年、北海道出身。3年時の全中で2冠を達成するなど、早くからその素質が開花。高校生となった今季も、シーズン終盤のFISレースで優勝、10点台のポイントを挙げるなど、期待の選手として活躍している。全日本ナショナルジュニアチーム所属

越龍之介

東海大学第四高校
Ryunosuke OKOSHI

